

# 高齢者の居住の安定確保に関する法律（抄）

（平一三・四・六一）  
法律二六  
最終改正 平二九法律二五

## 第一章 総則

### （目的）

第一条 この法律は、高齢者が日常生活を営むために必要な福祉サービスの提供を受けることができる良好な居住環境を備えた高齢者向けの賃貸住宅等の登録制度を設けるとともに、良好な居住環境を備えた高齢者向けの賃貸住宅の供給を促進するための措置を講じ、併せて高齢者に適した良好な居住環境が確保され高齢者が安定的に居住することができる賃貸住宅について終身建物賃貸借制度を設ける等の措置を講ずることにより、高齢者の居住の安定の確保を図り、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする。

### （国及び地方公共団体の責務）

第二条 国及び地方公共団体は、高齢者の居住の安定の確保を図るため、必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

## 第三章 サービス付き高齢者向け住宅事業

### 第一節 登録

#### （サービス付き高齢者向け住宅事業の登録）

第五条 高齢者向けの賃貸住宅又は老人福祉法第二十九条第一項に規定する有料老人ホーム（以下単に「有料老人ホーム」という。）であつて居住の用に供する専用部分を有するものに高齢者（国土交通省令・厚生労働省令で定める年齢その他の要件に該当する者をいう。以下この章に

おいて同じ。）を入居させ、状況把握サービス（入居者の心身の状況を把握し、その状況に応じた一時的な便宜を供与するサービス）をいう。以下同じ。）、生活相談サービス（入居者が日常生活を支障なく営むことができるようするために入居者からの相談に応じ必要な助言を行うサービス）をいう。以下同じ。）その他の高齢者が日常生活を営むために必要な福祉サービスを提供する事業（以下「サービス付き高齢者向け住宅事業」という。）を行う者は、サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅又は有料老人ホーム（以下「サービス付き高齢者向け住宅」という。）を構成する建築物ごとに、都道府県知事の登録を受けることができる。

### 第二節 業務

#### （高齢者生活支援サービスの提供）

1 前項の登録は、五年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によつて、その効力を失う。

#### （資金の確保等）

2 前項の登録は、五年ごとにその更新を受けなければならない。

第一八条 登録事業者は、入居契約に従つて高齢者生活支援サービスを提供しなければならない。

第一九条 登録事業者は、登録住宅の整備のために必要な資金の確保又はその融通のあつせんに努めるものとする。

第二〇条 都道府県知事は、登録事業者が破産手続開始の決定を受けたときその他入居者（入居者であつた者を含む。）の居住の安定を図るため必要があると認めるときは、当該入居者に対し、他の適当な賃貸住宅又は有料老人ホームに円滑に入居するために必要な助言その他の援助を行うように努めるものとする。

第二一条 地方公共団体等による高齢者向けの優良な賃貸住宅の供給の促進等の

地方公共団体による高齢者向けの優良な賃貸住宅の供給

地方公共団体は、その区域内において良好な居住環境を備えた高齢者向けの賃貸住宅（第四十六条において「高齢者向けの優良な賃貸住宅」という。）が不足している場合においては、基本方針に従つて、その整備及び管理に努めなければならない。

第五一条 公営住宅の事業主体は、高齢者向けの賃貸住宅の不足その他の特別の事由により公営住宅を公営住宅法第二十三条に規定する条件を具備しない高齢者において国土交通大臣の承認を得たときは、公営住宅の適正かつ合理的な管理に著しい支障のない範囲内で、当該公営住宅を当該高齢者に使用させることができる。この場合において、事業主体は、当該公営住宅を次に掲げる基準に従つて管理しなければならない。

一 入居者の資格を、自ら居住するため住宅を必要とする高齢者（国土交通省令で定める年齢その他の要件に該当する者に限る。）とするものであること。

二 入居者の家賃の額が、近傍同種の住宅の家賃の額と均衡を失しないよう定められるものであること。

三 前三号に掲げるものと並びに公営住宅法第十

六条第五項及び第六項、第十八条から第二十二條まで、第二十五條第二項、第二十七條並びに第三十二條に定めるもののほか、入居者の選定方法その他の当該公営住宅の管理の方法が国土交通省令で定める基準に適合するものであること。

2 公営住宅法第四十五條第三項及び第四項の規定は、前項の規定による承認及び公営住宅の使用について準用する。

**第五章 終身建物賃貸借**

**(事業の認可及び借地借家法の特例)**

第五二條 自ら居住するため住宅を必要とする高齢者（六十歳以上の者であつて、賃借人となる者以外に同居する者がいないもの又は同居する者が配偶者若しくは六十歳以上の親族（配偶者を除く。以下この章において同じ。）であるものに限る。以下この章において同じ。）又は当該高齢者と同居するその配偶者を賃借人とし、当該賃借人の終身にわたつて住宅を賃貸する事業を行うおうとする者（以下「終身賃貸事業者」という。）は、当該事業について都道府県知事（機構又は都道府県が終身賃貸事業者である場合にあっては、国土交通大臣。以下この章において同じ。）の認可を受けた場合においては、公正証書による等書面によつて契約をするときに限り、借地借家法（平成三年法律第九十号）第三十條の規定にかかわらず、当該事業に係る建物の賃貸借（一戸の賃貸住宅の賃借人が二人以上であるときは、それぞれの賃借人に係る建物の賃貸借）については、賃借人が死亡した時に終了する旨を定めることができる。

**(賃貸住宅への円滑な入居のための援助)**

第七二條 都道府県知事は、認可事業者が破産手続開始の決定を受けたときその他終身建物賃貸借の賃借人（賃借人であつた者を含む。）の居住の安定を図るため必要があると認めるときは、当該賃借人に対し、他の適当な賃貸住宅に円滑に入居するために必要な助言その他の援助を行うよう努めるものとする。

**第七章 雑則**

**(情報の提供等)**

第七四條 国及び地方公共団体は、高齢者の心身の状況、世帯構成等を勘案して、高齢者のための住宅の整備を促進するよう努めるとともに、高齢者が適当な住宅に円滑に入居することができようようにするために必要な情報の提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。